

年間第三十二主日

2010.11.7

ルカ 20・27-38

今年も11月の死者の月を迎え例年のようにご依頼いただいた皆様のご意向に従って、神のみもとに旅立たれた大切な方々のお名前を祭壇の近くに掲げさせていただきました。皆様にとっては、あらためて懐かしく思い出される多くの方々のお名前を探し出すことが出来ることでしょうか。ここにお名前が掲げられている方々だけではなく、この聖堂で祈りをささげられ、いまや神のみもとに逝かれた高円寺教会の信者としての私たちの全ての先輩の方々、また今ここで祈りをささげる私たちにとって大切な全ての亡くなられた方々のために今日のミサをささげて祈りたいと思います。

亡くなられた方々のことを想って祈りをささげるとき、私たちは何を願って祈っているのでしょうか。私たちの周囲では一般的に「ご冥福を祈る」というふうに表現しますが、キリスト者である私たちが亡くなられた方々のために祈る「冥福」のありかは、天地の創造主、全能の父である神のみもとにあります。そこにこそ全てに満たされた、何一つ欠けたところのない永遠のいのちの幸せがあると私たちは信じています。天地万物を創造された神が目指されたのは、神に創造されたものたち全てをご自分の安息に与らせることです。「創世記」の天地創造の物語の中で創造のみわざを完成された神が七日目に安息されたと記されているのは、そのようなことを意味しているのではないのでしょうか。神に創造された全てのものが、神の安息に与って営むはずの樂園における安らぎに満ちたいのちのありようは、創造主である神の意図に反する私たち人間の罪によって失われてしまいました。「お前のゆえに、地は呪われるものとなった、お前は生涯食べ物を得ようと苦しむ。・・・お前は顔に汗を流してパンを得る、土に返るときまで。お前がそこから取られた土に。塵に過ぎないお前は塵に帰る。」という、神に背いたアダムに対する「創世記」3章の神のことばは、そのまま、私たちのこの世におけるいのちのありようを示しています。樂園を追われた者として、この世の生を生きる私たちは皆、やがては死なねばならない者たちとなったのです。ここに集う私たちは皆、愛する者との死別の悲しみの中で、このような私たちの人間であることの現実の悲哀を体験いたしました。

けれども、そのような悲しみの中で、私たちは同時に自分がキリスト者であることの信仰のありがたさを他のどの時よりも感じ取ることが出来たはずです。

いのちの創造主である神は、私たちの罪深さにもかかわらず、私たちを死の闇の中に見捨てたままにしようとはなさらないとの希望を、自分が信じる信仰の中に見出すことが出来るからです。キリスト教の信仰は、それが私たちにもたらずこの希望にかかっています。十字架につけられて死んで葬られ、陰府に降り、三日目に死者の中から復活されたイエス・キリストは、弟子たちのもとを訪れ「あなたがたに平和」と呼びかけられました。復活されたイエス・キリストが弟子たちに告げられたこの平和こそ、十字架の死に至るこの世の苦悩の人生を生き抜き、その全ての苦しみに打ち勝って、いまや父なる神の安息の中におられるイエス・キリストの平和です。師と仰いだイエスの悲惨な十字架の死に遭遇して失意と混乱の中にある弟子たちは、この復活の主の平和に与ることによって、新たないのちの息吹を受けました。復活の主イエス・キリストの新たないのちの息吹の中で、弟子たちはイエスの十字架の死が彼らにもたらした悲しみを越えて、復活の主イエス・キリストとともに歩む、死を超えた新たないのちの地平に向かって歩み始めたのです。

私たちが受けた洗礼は、イエス・キリストによってもたらされた、死を超えた復活のいのちの息吹の恵みを私たちに与える教会の秘跡です。洗礼式の儀式書の中には、司祭と洗礼を受ける人との間で交わされる次のような問答があります。「あなたは教会に何を求めますか。」この問に対して洗礼を受ける人は「信仰を求めます。」と答え、それに続いて司祭はさらに「信仰はあなたに何を与えますか。」と尋ね、受洗者は「永遠のいのちを与えます。」と答えます。洗礼式のこの問答は洗礼が復活の主イエス・キリストによってもたらされた、死を超えた復活の永遠のいのちの恵みを私たちにもたらす教会の秘跡であることをよく表現しています。キリスト者としての信仰を生きるということは、洗礼によって与えられたこのような恵みを自覚的に受け止め、それによって開かれた死をも超える永遠のいのちの希望の地平に向かって、イエス・キリストの教えに導かれつつ、この世の生を生きるということです。

私たちに先立って、この世の務めを終え、神のみもとに旅立って行かれた方々のために祈る時、私たちはその方々が、全てのいのちをその永遠の安息に与らせようと望んでおられる神の懷に抱き迎えられることを願って祈るのです。死者たちのために祈るとき、私たちはイエス・キリストによってもたらされた復活の永遠のいのちの恵みに、あらためて目覚めて祈るのです。そのように考えるなら、亡くなられた方々のために祈ることが、私たちのカトリック信者としての信仰を生きる上で、とても大切な、大きな助けを与える務めである

ことが分かると思います。

今日、こうしてそのお名前を掲げて祈る、私たちに先立って神のみもとに旅立たれた私たちにとって大切な方々が、神のみもとから私たちに語りかけておられる声に耳を澄ませながら、このミサをおささげしたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高